

ROBA NEWS

えち鉄 福井駅⇔福井口駅間 高架運用開始！ 20180624



●関連記事 2～3P

●左：旧線路 右：高架線路

撮影：20180624 林照

☆☆活動報告☆☆

6月14日 ROBA6月例会・理事会
第1回カーフリーデー実行委員会
15日 えちぜん鉄道株主総会
17日 さばえ環境フェア
25日 福井鉄道株主総会
27日
福井市福井鉄道福武線サポート団体協議会
理事会・総会

28日 福井市地域生活交通活性化会議
29日 すまいるバス検討会
30日 福井市環境フェア
7月12日 ROBA7月例会・理事会
第2回「カーフリーデー」実行委員会

☆☆今後の予定☆☆

8月9日（木） ROBA8月例会・理事会

善光の一言

ご当地グルメ評論家会員？の富山県在住、善光です。
全国各地で今、ご当地グルメ、B級グルメなどで街おこしをするところが増えてきています。そんな中、宇都宮で話題になっているのは「キスできる餃子」？
餃子でまち起こしをしている宇都宮で、町を挙げて製作されたご当地映画です。おもしろい作品です。

そして金沢と言えば“第7ギョウザ”が有名ですが、“第5ギョウザ”、“第6ギョウザ”も存在します。

それぞれ住宅地の中にある食堂と居酒屋です。ギョウ味のある方はネットで調べて行ってみてくださいね。そして、テレビドラマでは、福井商業高校での実話をもとに作られた“チアダン”が放送されます。視聴可能な方は、ご覧になられては？

宇都宮の話題



第五ギョウザ

えちぜん鉄道高架切り替え（新幹線高架仮線→専用高架線）報告

文：清水

えちぜん鉄道では2018年6月24日に、北陸新幹線高架仮線での運行から、建設が進められてきた専用高架線での運行に切り替えました。その様子を、専用高架線での習熟運転、切り替え前日、専用高架切り替え初日と見てきましたので報告します。2015年9月に北陸新幹線高架仮線での運行が始まってから2年9か月、1963年に数か月間、阪急京都線の電車が高架工事中の仮線として開業前の東海道新幹線の高架上を走って以来のこの極めて珍しい事例は6月23日を以て運用が終了しました。

えちぜん鉄道には6月6日～8日の専用高架線での習熟運転、23日の新幹線高架仮線での運行の最終日、そして専用高架での運行初日と、県内・全国から多くの住民やファンが訪れました。24日午後13時から、この日開業した新しいえちぜん鉄道福井駅の前で、知事や福井市長ほか大勢の関係者が参列して「えちぜん鉄道高架化完成記念式典」が開催されました。



専用高架の習熟運転。左側は新幹線高架の電車



切り替え初日の専用高架を走る電車



切り替え初日の新しいえちぜん鉄道福井駅



えちぜん鉄道高架化完成記念式典(小野さん撮影)

完成したえちぜん鉄道の専用高架の延長は勝山永平寺線・三国芦原線合わせて3キロほど。勝山永平寺線は福井口駅を出るとすぐ地上に降り、従来の線路に接続するのですが、三国芦原線は福井口駅を出るとそのまま高架で北へ進み、北陸本線を乗り越える盛り土上の線路の途中に接続されました。このあたりの様子はYouTubeに動画をupしましたのでご興味のある方はご覧頂ければと思います（https://youtu.be/ZmicolaLJ_s）。まだupしてから1か月も経っていませんが、既に1万3千回を超える視聴があり、関心の高さがうかがえる状況になっています。なお、この高架切り替えにより福井口駅が高架化され、幹線道

路では勝山街道の福井口踏切が廃止されました。

新しい福井駅は永平寺をモチーフにしたとのことで、丹塗をイメージした赤い駅舎となりました。駅舎東側は1・2階とも全面ガラス張り。内装は県産の杉を多く使用したそうで、明るい杉材の色がとても印象的。格子状の天井が寺院建築のイメージです。島式ホームを挟んで勝山永平寺線用と三国芦原線、南側に各引き上げ線があり、これは新幹線高架仮線時代と同じ配置。1階の改札口との間には階段、エスカレーター、エレベーターが設置されています。1階は改札口の左側にえちぜん鉄道の切符売り場、右側には京福バスのチケットセンターが並ぶとても画期的で先進的なものとなりました。そのあたりはいかにも福井らしい取り組みです。奥には案内所を兼ねたカフェ、休憩コーナー、コインロッカーも設置され、とにかく全面ガラス張りが効いていてとても明るい良好なイメージの駅となっています。皆さん是非一度新しいえちぜん鉄道福井駅に足を運んでみてください。

新福井駅、福井口駅はともに交換駅で、新福井駅は対面式、福井口駅は島式ですが、福井口駅には新たに車庫への回送や団体列車の折り返しに使用する切り欠きホームが設置されました。ki-bo もここを使用して回送されているため、高架上を低床車両が走る珍しい光景も見られるそうです。両駅にはともにエレベーターが設置されています。



新しいえちぜん鉄道福井駅ホーム（初日）



新しいえちぜん鉄道福井駅コンコース（初日）

これまで、えちぜん鉄道が間借りして走行していた北陸新幹線福井駅部 800メートルは、北陸新幹線が2005年に金沢までの着工認可された際、福井県が県内延伸を担保するため福井駅部の先行整備を求めて認められ、北陸新幹線の先行整備区間として2005年に建設が開始され、2009年に完成したものです。これまでの間、えちぜん鉄道の走行空間をどう整備するか様々な議論があり、2011年に北陸新幹線金沢—敦賀間の建設を認める方針が出され2012年着工認可。その際、えちぜん鉄道は北陸新幹線福井駅部 800メートルを間借りし、その間に新幹線高架の東側にえちぜん鉄道専用高架を建設することに決定。2015年9月に新幹線高架仮線での運行に移行すると同時に地上の軌道・施設等の撤去を行い、専用高架の建設が進められてきた経緯があります。

「福井しあわせ元気国体・障スポ」に間に合うよう専用高架の整備が行われましたが、これは5年後の北陸新幹線の金沢—敦賀間開業をにらんだもの。えちぜん鉄道が専用高架に移った後の福井駅部を含め、今後、新幹線の工事が急ピッチで進められていくと思われます。新しくなったえちぜん鉄道は、えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れによるLRTとともに、国体・障スポの観戦客や、北陸新幹線で福井を訪れる旅行者・ビジネス客の「移動・観光の装置」としてますます存在感を増していくものと思われます。

久野譜也教授講演「自然に健幸になれるまちづくりにおける公共交通の重要性」要旨

去る5月13日にご講演頂いた筑波大学教授の久野譜也先生のご講演内容を以下に要約します。

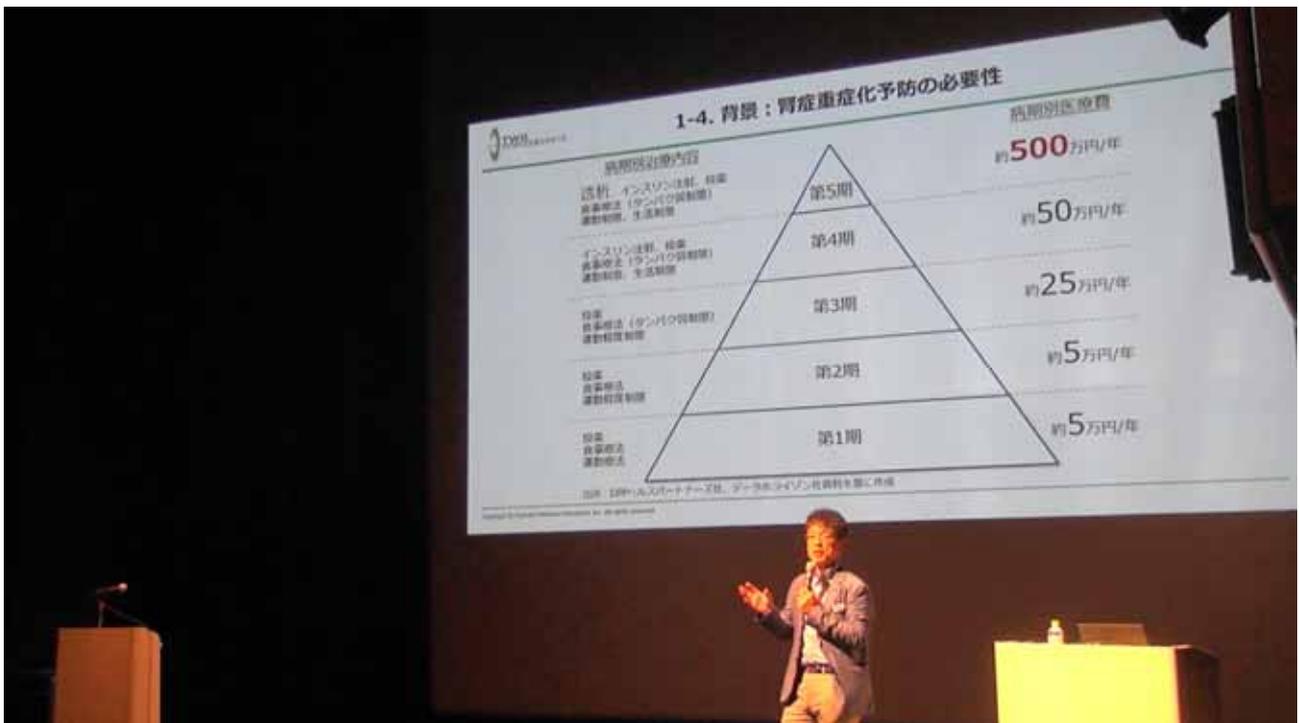
■はじめに

健康づくり、特に予防面において、運動、食事、睡眠等、狭義の健康施策では効果が出ない。都市環境が健康に大きく影響する。不健康になりやすいまちを変えていかなければあまり効果は出ない。

福井のLRT非常に素晴らしいが、一方で典型的なクルマ依存の街。社会の課題を解決するためには、常識も法律も変えて、在り方を変えようとする覚悟が必要。我々はどこまで覚悟を持ってクルマ依存社会に対処してきているか。市民は「なぜ公共交通を残さなければならないのか」はわからない。ただ、これからの高齢社会において、公共交通の活用が実は健康の期間を長くし、寝たきりの期間を短くするということが分かれば、公共交通を残したいと考えるのではないか。

■2025年問題

今、日本人は0歳から100歳までで一番人口が多いのが団塊の世代。それが2025年に全員後期高齢者となる。現在、高齢者の3%ぐらいが介護認定になっているが、75歳以上の後期高齢者では23%に増える。認知症も、60代後半で2%、70代前半で5%。これが70代後半以降は10%以上になる。現在、医療費が年間40兆円。介護が10兆円。これが2025年までに約70兆円から80兆円まで増える。社会保険制度、特に健康保険制度を維持することは不可能。これを消費税で賄うなら、現在の8%を20%~25%にしない限り補填できない。現実には8%から10%に上げるのだけでも2回見送られている。これを2025年までの7~8年で20%や25%に上げることは事実上不可能。現在、40兆円の医療費の半分弱の約20兆円が生活習慣病関連で使われている。生活習慣病の8割~9割弱が生活習慣の影響。生活習慣をより良い方向にしていけることがかなり効いてくる可能性がある。



透析は糖尿病性由来が圧倒的に多い。腎臓病をステージに分けると1期から5期まで分けられるが、1期だと年間5万円ぐらいで診ることができる。第4期だと50万円。5期だと500万円になる。透析

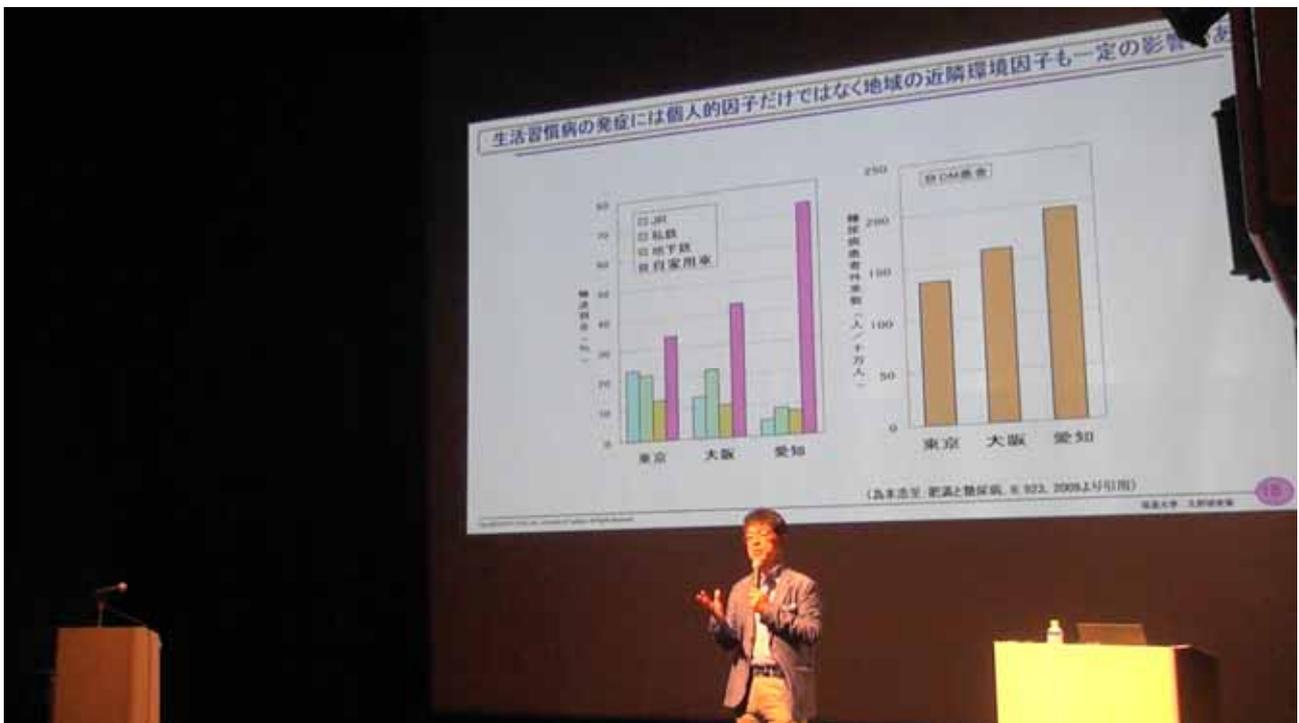
は一生必要。40代前半で糖尿病から透析になる方、20年ぐらい生きられるので、20年×500万円で1億円。透析は週3から週4回。1回大体6時間～7時間。働き世代も普通は働けなくなるので多くの方が生活保護を受ける。そこにもものすごく税金が投下されている。自分の保険料では払えない。これが我が国の実態。

2009年にWHOが死因のベスト20を発表。そのうちベスト5が、1位が高血圧、2位がタバコ、3位が高血糖（糖尿病）。4位が運動不足。第5位が肥満。2位のタバコ以外は、運動不足を解消すると全て薬になる。つまり運動不足を解消していくことが寝たきりを予防する。

もう1つが認知症対策。4人～5人に1人発生する（厚労省データ）。生活習慣病の結果認知症となるということがほぼ判明している。運動不足の人が一番認知症になりやすい。クルマ依存し過ぎる生活を避けられない限りこういう問題になりやすいことが科学的に判明。医療費と歩数に綺麗な相関が出る。福井はクルマ依存が実態で運動不足の県。住めば自然と糖尿病、生活習慣病になれるまち。日本の地方都市のほとんどがこのような状況に陥っている。

■無関心のまま健康にしておもうという発想＝「ウォーカブルシティ」

生活習慣病の予防に必要な運動量が不足している人は約7割。足りている人が約3割。この7割のうちの7割は今後も運動する意思がないし、健康情報にもアクセスしない。運動量不足しているが今後やる意思がある3割は健康情報を取っている。運動量が足りている3割も健康情報を取っている。情報を取らない無関心層は変わるはずがない。分かっているけどできないのではなく分かってないからできない。今までの自治体や国の施策では健康情報が全然届いていなかったのが変わるはずがない。



無関心層を変える戦略として、無関心のまま健康にできないか。2025年まで時間がなく、教育的に変えていくだけでは間に合わない。健康と都市環境の東京、大阪、愛知のデータで日常の主な移動手段が自動車という人のデータでは東京が35%、大阪が43%、愛知が75%。糖尿病の患者数では愛知が一番多い。綺麗に相関が出ており、自動車依存が糖尿病を引き起こすことが分かる。これには都市環境が影響している可能性がある。インフラの有無がこのような結果をもたらす。

WHO が「健康都市＝ウォークアブルシティ」と定義づけている。全部「歩く」だと行ける範囲が限られてしまうため、「ウォーク」の中には公共交通も含まれている。ロンドンやパリ、ニューヨークでさえ、「ウォークアブルシティ」に変えると宣言し、政策転換を図っている。

皆歩いて買い物にいくような商店街の半径 500 メートル地域に住んでいる人たちの健康度が高く、郊外の大規模ショッピングセンターの周りに住んでいる人たちの健康度が悪いという比較データが出ている。過度のクルマ依存でクルマがないと生活できないまちに大きな問題がある。

まちなかに出てきてショッピングを楽しむのも健康づくりになることが科学的に判明。70 歳以上では週 3 日以上外出する人ほど健康度が高い。家から外に出たくなるまちのハードやインフラがあるか、まちに出て行ってまちで楽しむ場所や内容があるかがこれからの日本の社会対応となる。「ウォークアブルシティ」はそれ。公共交通の整備と、来て楽しむ場所が同時に必要。その組み合わせ、政策のパッケージ化が重要。



1 日 8000 歩以上歩かないと活習慣病になるという指針が国から出ているが、地方都市圏のクルマ依存の人たちは頑張ってもそこに辿り着かない。都市環境が効いてくる。通勤で公共交通を使いたくても整備されてなければ増やせない。どれくらい運動すると医療費が下がるか。1 歩増やすと 0.061 円医療費が下がる。これは、ある量増やしたなかで 1 歩あたりの計算という意味。年間で 1 日あたりの平均を、6000 歩の人が 8000 歩に増やすと、0.061 円 × 2000 歩 × 365 日 × 1 万人で、約 4 億円の医療費の削減効果につながる。人の健康づくりは人だけではなくて、まちも健康にするという発想が必要。市民がクルマ依存で、郊外に大型ショッピングセンターができまちなかが寂れるというのは都市が不健康な状態。

■ ソーシャルキャピタル

ソーシャルキャピタル＝人と人のつながり＝「絆」。「絆」が高い地域に住んでいる人ほど健康度が高い。逆に、対人関係が非常に疎遠な地域に住んでいると健康度が低くなる。まちなかで知人と偶然出会って挨拶をし、ちょっと立ち止まってちょっと話し込む。そういうものが多発するまちほどソーシャルキャピタルが高い。歩いたり公共交通を使ったり（ROBA というホジロバ）すると、往復のプロセスで

も偶然の出会いがある。「ウォーカブルシティ」という発想、考え方がこれからの社会において重要。

■世界の潮流

ヨーロッパの事例から、歩いている人が多く **LRT** もあるまちが環境面だけではなく、実は健康面にもある程度効いてきているのだということが分かってきている。

われわれの業界では健康情報とか健康知識を克明に伝えて、理解してもらい、行動を変えてもらう。しかし、ヨーロッパはクルマから降りる便利さを用意したうえで降りて頂く。しかも押し付けではなく、クルマで行きたい人はクルマも行ける。ここが大きなポイント。そういう面で、福井が今こういう形で **LRT** を含め整備が進んでいるのは、日本の中でとても良い例。ただ、当然ながらこれで全部はカバーできない。**LRT** ではないところを **BRT** でカバーするなど、総合的に作ることも福井は目指して欲しい。

ロンドン市長の「**Healthy Streets for London**」という政策。明確に「自動車利用を減らし、徒歩、自転車、公共交通の利用促進によって健康都市を目指す」と明確にロンドン市でも出ている。これが世界の一つの潮流である。

パリでも **LRT** を導入しているが、導入するのに市長が何人も代わっている。しかし、だんだん時代と共に市民が理解して、ペースが最初の頃より速くなって来ている。

■最後に

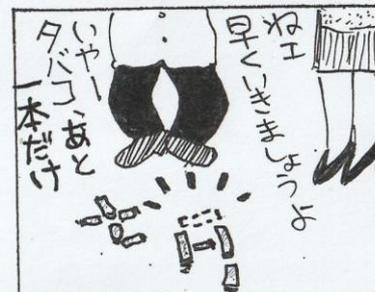
全体に無関心層が多い。無関心層は情報を取らない。無関心層を含めて住民投票をしたら、今だけ見ているから絶対に通らない。絶対反対となり前に進まない。だから、そこに情報を伝えて、自分たちのまちをどうしていくのか、何が起こるのかを理解させていくには地域、コミュニティ単位での口コミしか手がない。上からでは聞かないので口コミで情報が展開していく。これはマーケティング用語でインフルエンサーと言う。動かない人が、半年くらいの間に情報を **5回~6回** 聞くとやっと動く。

■編集後記

この講演のなかで、「福井の **LRT** がこんなに上手く整えられているのを知って感動した。これが実は単に皆さんの生活を便利にするのではなくて、実は健康で、そして豊かなそういう生活をするための必須のインフラなのだ。特にこういう高齢社会においては間違いなくそうなのだということを、逆に市民の皆さんがどれくらいまで自覚されているのだろうか。そこが少し気になっている。」という久野先生の言葉がとても印象に残りました。そこは福井の大きな課題なのだと思います。

この講演の後、メンバーの福井工業大学教授の三寺潤さん、内田会長を交えて鼎談を行いました。ここでは、この講演内容にクロスセクターベネフィットの論点を加え、福井の都市・交通政策についての議論も交わされました。とても貴重な講演会でした。久野先生のご講演により、改めて福井が採った交通政策の重要性を認識できたと思います。日本の地方全体がクルマ依存社会を野放しにすることで、もう **7~8年** 先に訪れる、団塊の世代が全員後期高齢者になる時代の、この国の医療費の爆発的増大、健康保険制度の破綻等、尋常ではない社会課題に絶望的な心持になります。そのようななか、福井のような地方都市における、そのような大きな社会課題に対する処方箋となる公共交通インフラの整備により、中心市街地を歩いて日々楽しくショッピングできるまちにする都市・交通政策に要する費用は、そのような近未来の医療費に比べたら決して大きなものではありません。久野先生の、この交通の在り方にも踏み込まれたご講演が、是非、もっともっと各地で開催されてほしいものです。 (清水)

怪速! 路面ライダー by.うし哲



タバコの本だけ捨てはやめよ!!

作/漆畷 耕次

がんばれ福井鉄道

No.1 岸本 雅行

小学校時代は校舎のすぐ横を福井鉄道が走っていました。中学・高校と福井鉄道で通学、就職してからはクルマ通勤（呑み会の時だけ福井鉄道を利用）でしたが、定年後の再就職でまた福井鉄道を利用するようになりました。福井鉄道と共に育ったような私ですが、通勤途中で感じたことなどを書かせていただき、福井鉄道を応援したいと思います。

6月末、岐阜県から高校生（数校で構成する地域研究クラブの生徒）と引率教員の計50名ほどのグループがバス1台で福井県を訪れました。私が案内をして一乗谷朝倉氏遺跡・北ノ庄城跡・敦賀ムゼウムなどを巡りましたが、高校生たちは福井駅西口の動く恐竜と福井鉄道の低床車両フクラムに大歓声を上げていました。岐阜県の高校生にとって路面電車は珍しいようで、おしゃれなフクラムに新鮮な印象を受けたようでした。ただ、フクラム以外の福井鉄道の車両は岐阜からやってきた（旧名鉄の岐阜市内線で活躍していた）と説明しても、懐かしがるのは引率の教員だけで、高校生（廃線当時は4歳くらい）にとってはあまり関心がないようでした。案内をしていて、福井駅西口再開発やフクラムも観光資源として十分に活用できるのではないかということを感じました。県外からの観光客には東尋坊・永平寺・一乗谷朝倉氏遺跡などを案内するのが一般的ですが、公共交通とまちづくりという視点で再開発が進む駅前に観光客を呼び込むことも必要かと思えます。

私が以前から思っていることですが、雑然として道幅の狭い駅前電車通りを路面電車がノロノロ走る光景は、香港のノースポイント（北角）界隈を連想させます。日本の路面電車が走る街角の中でも、このような光景の地域は他にはないと思います。テレビコマーシャルの撮影などを誘致し、人気スポットとして情報発信をすれば、全国の注目を浴びる可能性もあります。そして、トランジットモールとして整備されれば最高です。

福井駅西口再開発とフクラムの走る駅前電車通りをもっと多くの観光客に見て楽しんでいただけるように、そして福井鉄道にも乗車していただけるように、いろいろな仕掛けを考える必要があると思います。

編集後記・・・編集委員より一言

内田（発行責任者）

「サッカーワールドカップ盛り上がっていますね！私は野球ファンですが、スポーツはいいですね。舞台が世界となると心意気というか執念というか、選手ひとりひとりが半端ではないことが伝わってきますね。やっぱスポーツはいいです。」

林（変集長）

「森田コミバス試験運行開始が早まり、うれしい悲鳴を上げています」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>